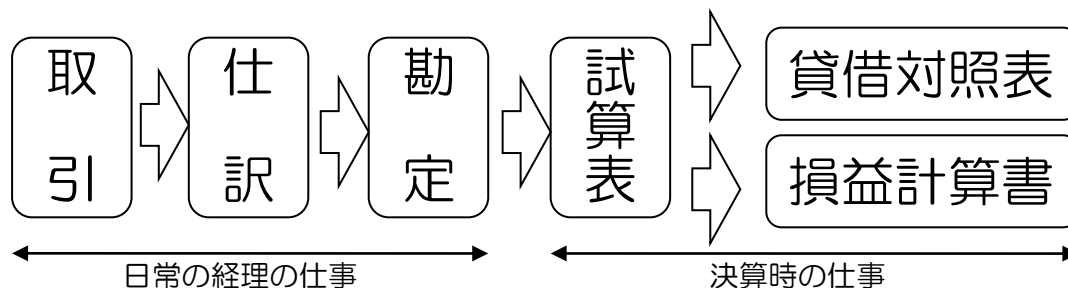


# 第4回 簿記の世界をのぞいてみよう！（Ⅱ）

## <要 点 整 理>

### 1. 簿記の流れ

- 簿記はどのように行われるのか、簿記の流れを示すと下図のようになります。



- ※今回のレポートでは、取引、仕訳、勘定、試算表について見ていきます。

### 2. 取引

- 取引**<sup>とりひき</sup>とは、簡単に言うと仕訳することになる行為のことです。たとえば、「150万円の車を現金で購入した」「1万円の商品を現金で販売した」などの行為が取引なのです。
- なお、簿記上で用いる取引と一般的に用いる取引とでは、若干意味が異なります。たとえば、「火災で建物が焼失してしまった」とか、「盗難にあつて商品が無くなってしまった」という場合は、一般的には取引とは言いませんが、簿記では取引として仕訳することになります。
- 逆に、建物の賃貸借契約<sup>ちんたいしやくけいやく</sup>など契約を取り交わすことを、一般的には取引と言いますが、簿記では仕訳することになる行為ではないので、取引に含みません。

### 3. 仕訳

- たとえば、「150万円の車を現金で購入した」とします。この取引を仕訳すると、下記のように表されます。

↓…「/」は仕訳を左側と右側に分けるものです  
 (車 両) 1,500,000 / (現 金) 1,500,000  
 ↑…簿記上、車は「車両」と表します

- カッコ内に書かれている「車両」「現金」といった項目を**勘定科目**<sup>かんじょうかもく</sup>といい、この勘定科目と金額を使って取引を記録することを**仕訳**<sup>しわけ</sup>といいます。
- 上記の仕訳の場合、「車両」と「現金」は共に資産の勘定科目になります。前回のレポートで解説しましたが、貸借対照表を構成する3種類のうち資産は左側に記入されます。つまり、資産が増えた場合は左側に記入されて、資産が減った場合は右側に記入されます。よって、上記のような仕訳がされます。ちなみに、負債・純資産（資本）が増えた場合は右側に、減った場合は左側に記入されます。

（裏に続く）

#### 4. 勘定

- 仕訳した勘定科目と金額は<sup>かんじょう</sup>勘定と呼ばれるT字型の表に書き写します。具体的には下図のように記入します。

[仕訳] (車 両) 1,500,000 / (現 金) 1,500,000

↓ 転記

[勘定]

車 両	現 金
1,500,000	1,500,000

- 上図のように、勘定科目ごとに勘定を設け、仕訳の左側に書いたものは勘定の左側に記入し、仕訳の右側に書いたものは勘定の右側に記入します。
- なお、仕訳から勘定に書き写すことを、簿記では<sup>てんき</sup>転記と呼んでいます。また、勘定が書かれている帳簿のことを<sup>そうかんじょうもとちよう</sup>総勘定元帳といいます。
- ちなみに、簿記では仕訳や勘定の説明で出てきた左側のことを<sup>かりかた</sup>借方といい、右側のことを<sup>かしかた</sup>貸方といいます。

#### 5. 試算表

- 決算を迎えたとき、最初に作成されるのが<sup>しきさんひよう</sup>試算表です。試算表とは、各勘定を集計して作成される表のことをいいます。
- 試算表には、<sup>ごうけいしきさんひよう</sup>合計試算表、<sup>ざんだかしきさんひよう</sup>残高試算表、<sup>ごうけいざんだかしきさんひよう</sup>合計残高試算表の3種類あります。合計試算表とは、各勘定の借方合計、貸方合計のそれぞれを集計して作成した試算表のことです。残高試算表とは、各勘定の残高のみを集計して作成した試算表のことです。合計残高試算表とは、合計試算表と残高試算表を1つにしたものです。
- 合計試算表と残高試算表を作成する場合、下図のようになります。

[勘定]

現 金	借 入 金
10,000 90,000	30,000 80,000

↓

[試算表]

	合計 試算 表	
100,000	現 金	30,000
⋮	⋮	⋮
10,000 + 90,000	借 入 金	80,000
⋮	⋮	⋮

※「借入金」→借金のこと。したがって、負債となる。

	残 高 試 算 表	
70,000	現 金	30,000
⋮	⋮	⋮
100,000 - 30,000 (借方合計) - (貸方合計)	借 入 金	80,000